

平成 27 年度 自己評価報告書



奈良リハビリテーション専門学校

目次

1.本校の教育理念・教育目標	・・・1
2.平成 27 年度 自己点検・自己評価の総括	・・・2
評価項目の達成及び取組状況	・・・3
基準 1 教育理念・目標	
基準 2 学校運営	・・・4
基準 3 教育活動	・・・5
基準 4 学修成果	・・・7
基準 5 学生支援	・・・8
基準 6 教育環境	・・・9
基準 7 学生の受入れ募集	・・・10
基準 8 法令等の遵守	・・・11
基準 9 社会貢献・地域貢献	・・・12

本校の教育理念・教育目標

<建学の精神>

保健・医療・福祉諸施設、団体と綿密に連携し、地域社会に根ざした理学療法士教育を実践し、広く社会に貢献する。

<教育理念>

豊かな人間性を養い、有能にして広く社会の要請に応え得る理学療法士を育成することを目的とする。

<教育目標>

- ・常に向上心をもって取り組む姿勢を養う。
- ・痛みを共有できる感受性を養う。
- ・確かな治療技術を習得する。

2. 平成 27 年度 自己点検・自己評価の総括

評価項目の達成及び取組状況

基準 1 教育理念・目標

No	点検項目	自己評価
1-1	学校の理念・目標・育成人材は定められているか	3.5
1-2	学校の特色は何か	3.3
1-3	学校の将来構想を抱えているか	2.6
1-4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが周知されているか	3.1

以上の点検結果をふまえて、基準 1 の総括と特記事項を以下に記載する。

点検項目総括	<p>本校の教育理念は「豊かな人間性を養い、有能にして広く社会の要請に応え得る理学療法士を育成することを目的とする。」としており、教育目標には「常に向上心をもって取り組む姿勢を養う。痛みを共有できる感受性を養う。確かな治療技術を習得する。」の 3 点を掲げている。本校はこの様な特色を持って学校教育を実践している。しかし、学生にこの内容が十分に周知されているとは言い難く、なりたい理学療法士像が曖昧なままで学習を進めているものもいる。また、学力・性格・環境・社会性・ソーシャルスキルが乏しい学生が増加しているため学生の質の変化が激しく、従来よりも具体的に明示的な教育目標が必要であると思われる。さらに、「豊かな人間性を養う」を意識し、社会的価値観や道徳観、倫理観などを向上させるような学内活動の見直し、また、学外でも対応できるコミュニケーション能力向上を図るための専門性の高い外部講師による教育が必要となってきた。</p> <p>このように多様化する学生に対応するためには、教育理念と教育目標を踏まえ、短期的または中・長期的将来構想を明確にしたうえで、本校が求める入学者像、育成人材像の見直し。明確な理学療法士像を持った学生の育成。それに必要なカリキュラムの見直しおよび作成。教員の統一した教育や指導の実践。そして学校理念に学生を近づけるための学生支援の検討が必要とされている。これらのことを実現するため、理念や目標を学生と共有するように努め、その上で学生がなりたい理学療法士像を明確に出来るような支援を行っていく必要がある。また、教職員は一丸となって情報共有やディスカッションなどを積極的に行い、同じ観念のもと教育指導に努める必要がある。</p>
今後の課題	<p>学校の理念・目標を設定したうえで、学校の特徴を示し、質の高い学生の確保。</p>

最終更新日付	平成 28 年 2 月 10 日	記載責任者	中谷秀美
--------	------------------	-------	------

基準 2 学校運営

No	点検項目	自己評価
2-1	運営方針が策定されているか	2.9
2-2	事業計画が策定されているか	2.8
2-3	運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか	2.8
2-4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	2.9
2-5	意思決定システムは整備されているか	2.6
2-6	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	2.4
2-7	業務の効率化が図られているか	2.8

以上の点検結果をふまえて、基準 2 の総括と特記事項を以下に記載する。

点 検 項 目 総 括	<p>学校運営に係る課題として、先々のビジョンが不明確なため問題点とその対策が曖昧になり方針や事業計画に具体性がないことが課題となっている。このことに対する改善方策は、「教育理念・目標」の改善方策と同様で将来に対するより具体的な目標策定が必要とされている。また、直近の事業計画に関しては各運営会議の中でなされ大きな方針を持っているが、定期的な実施や進行状況等確認がなされていないこともある。事業計画は前年度のものを参考に教務会議を経て運営会議にて決定されている。このような計画立案システムや意思決定システムは学校授業計画に対しては問題解決に対する柔軟性や効率性、スピード感の実現を可能にしている。一方で、運営会議と教職員会議との間で連携が取れていないこともあり、さらなる連携を図る必要がある。</p> <p>また、意思決定システムの整備に関しては、ルートが統一されていないことが課題として挙げられた。学内で対応可能な事象については、今までどおり教務会議で教員が検討した意思決定を副校長、校長に報告後の対応が出来ると考えられる。しかし、今年度発生した、重大な事案については、教員の中で検討はするものの、最終的には理事者に意思決定を求める必要があった。また、緊急性がある事案の場合、よりスムーズで円滑な方法で対応する必要がある。そのためにも、意思決定システムをマニュアル化し、早急な対応が可能となるよう整備を図っていくことが必要である。</p> <p>職員の業務分掌はそれぞれの立場や役割によって学校が定めており、その実績は十分な成果を上げている。ただ、各個人の能力に依存しているため、業務についての質的および量的な改善についても個人の範囲で取り組んでいる事が多く、その場合効率化よりも内容の充実にウェイトをおく傾向にある。その結果、各個人の業務は膨らむ傾向にあり、全体としてもここ数年で業務量は増加している。このような問題について、重複する業務の整理と編成。複雑になっている業務をシンプルにすることにより、更なる効率化を図っていく。</p> <p>教育活動に関する情報公開では、授業風景(内部科目において全て)をホームページに載せて公開している。その中に自己評価が載せられていないことは課題としてあげられている。現状の情報公開ではまだ不十分な点もあり、その内容や方法の検討は継続しながら、パンフレットやホームページなどを通じて本校の教育活動を周知するために活発におこなっていく必要性を感じる。また、入学者減少傾向を受けその実施・充実に向けて専門の部門設置の検討も同時に行うことがのぞましい。</p>
課 題 今 後 の	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定システムのマニュアル化 ・自己評価の公開

最終更新日付

平成 28 年 2 月 10 日

記載責任者

中谷秀美

基準 3 教育活動

No	点検項目	自己評価
3-1	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3.2
3-2	学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3.1
3-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3.3
3-4	カリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3.3
3-5	カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3.2
3-6	実技・実習等が体系的に位置づけられているか	3.1
3-7	授業評価に実施・評価体制はあるか	2.7
3-8	外部関係者からの評価を取り入れているか	1.7
3-9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	3.4
3-10	人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	3.3
3-11	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3.0
3-12	職員の能力開発のための研修等が行われているか	2.6

以上の点検結果をふまえて、基準 3 の総括と特記事項を以下に記載する。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">点検項目総括</p>	<p>本校のカリキュラムは日本理学療法士協会が推奨するコアカリキュラムに準拠したものになっている。現状のカリキュラムでもおおよそ体系的に編成されているが、現在も整理を続けているところであり、新規科目の開設や既存科目の縮小も検討している。なかでも実技・実習等に係るカリキュラムについては本校の教育理念に沿った特徴を生かすために重点的な工夫がなされている。しかし、実際臨床実習で実技能力が特化してよいと称賛されることもなく、以前より実技能力が低下しているようである。すなわちカリキュラムの履修時間だけでは、実技能力として成果を出せない状態である。座学同様、実技科目でも定期試験や臨床実習である一定の成果を出すためには、学校主体の自己学習時間の確保が必要であるといえる。また、その自己学習時間は、学生が能力として身につけるための「必要時間」として単位を取得するための履修時間として計上しカリキュラム内の時間数に入れてはどうかという案がある。しかし、これ以上のカリキュラムの時間数の増加はコマ数を圧迫することとなり組み入れることが難しい状況である。本校は3年制で大学に倣ったカリキュラム編成は難しいと思われるが、学生の実技能力低下に対し検討が必要な時期に来ているのではないだろうか。このような視点でカリキュラムを検討したことがないためカリキュラム変更時に現実的に可能かどうか、または新たな対策を検討する機会なのかもしれない。</p> <p>授業は本校が定める内容に則って講師が作成したシラバスのもと実施されているが、内容の調整が十分に行えていない科目もあり、内容に一部重複を認める場合もある。これを重要項目について何度も学習できるという点から肯定的に捉えることもできるが、教員の中にはもう少し整理すべきであるとの意見もある。そこで授業調整を目的とした講師会議などの実施を検討しているところである。しかし、着手できていないのが現状である。まず、コアカリキュラムに照らし合わせた授業内容の照らし合わせから始め、重複・欠如している項目の列挙を今年度着手してみる。</p> <p>また、授業の評価は現在のところ学生からの授業アンケートのみであり、教職員や外部者からの評価はほとんど実施されていない。そのため授業方法の工夫・開発はアンケート結果や講師の自己フィードバックなどをもとに行われることが多い。そこで授業評価項目などを作成し、それをもとにした教職員講師間での授業見学や評価の実施を検討していく案が出ている。</p> <p>教員の能力開発に向けた研修会の参加などについては、個人の判断で行われており、休暇調整や費用負担なども個人に負うところが多い。このことは個人の嗜好性が強く反映された研修参加となり、本校が望む職員を育成するための計画的研修とはギャップが生じる可能性がある。そこで実務に係る知識・技術についての研修を組織的に計画し受講できるように年間計画を立案することで、長期的な視点に立った教員の能力開発や人材育成に努める。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">特記事項</p>	<p>単位認定や進級・卒業に係る判定は職員の中で共通の基準を持つことができおり、その基準を変更しないように努めている。このことは本校の教育水準を保障するものであると考えている。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実技能力に対する自己学習時間の検討および対策 ・授業調整を目的とした講師会議などの実施に向けた具体的な取り組み ・授業評価項目の整備 ・組織的な計画による研修会への参加

最終更新日付	平成 28 年 2 月 10 日	記載責任者	中谷秀美
--------	------------------	-------	------

基準 4 学修成果

No	点検項目	自己評価
4-1	就職率の向上が図られているか	3.6
4-2	資格取得率の向上が図られているか	3.0
4-3	退学率の低減が図られているか	2.5
4-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	2.2

以上の点検結果をふまえて、基準 4 の総括と特記事項を以下に記載する。

点 検 項 目 総 括	<p>退学者は 1 年次において、志望動機が不明確で進路変更していくもの。学力では、解剖学、生理学の科目を履修できない学生が多い。2 年次は学力的な問題が大きい。また、臨床実習においてそれまで社会性、表出力の問題がありながら進級してきた学生は臨床実習 I (評価実習 II) においてさらに専門的な知識、推論、思考過程の点で能力を求められクリアできない。3 年次は卒業課題と臨床実習 II で単位を落とす学生が多い。いずれの場合も留年が決定した時点で、経済的な問題が生じるためさらに退学を余儀なくされている傾向が強い。経済的な問題に関して、一定条件を満たした学生に限り「特別学費支援制度」が設けられている。しかし、継続的な制度か未定であるため制度の保障が必要である。留年者の減少を目指す改善策としては、学生アンケートの結果より履修困難な科目の早期フォローを個別に行うこと。また、退学の原因の詳細を把握し問題の掘り下げを行い今後の教育方針に取り入れ、退学率の低減に務める。</p> <p>また、このような学習者が集まる仕組みにも注目する必要がある。今後はさらに新卒者の母数も減少することからより良い学生を入学させるための入学システムの構築を同時に行う必要がある。しかし、学習意欲の比較的低い者も入学させざるを得ない状況は学校運営の財務基盤を確保するためやむを得ないことであり、少しでも学習意欲の高い者を選ばれる学校であれば解決できる問題も多いので、そのような学校作りに努めなければならない。</p>
課 題 今 後 の	<ul style="list-style-type: none"> ・入学システムの構築 ・学生の問題点に対する個別指導

最終更新日付	平成 28 年 2 月 10 日	記載責任者	中谷秀美
--------	------------------	-------	------

基準 5 学生支援

No	点検項目	自己評価
5-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3.6
5-2	学生相談に関する体制は整備されているか	3.5
5-3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.3
5-4	学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	3.3
5-5	学生の生活環境への支援は行われているか	2.6
5-6	保護者と適切に連携しているか	3.2
5-7	卒業生への支援体制はあるか	2.5
5-8	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	2.75

以上の点検結果をふまえて、基準 5 の総括と特記事項を以下に記載する。

点 検 項 目 総 括	<p>本校の特色でもある、教員と学生の距離が近いという特徴から普段から学生の変化を捉えることに努めている。学校生活を送る中で生活面が問題となるとき(遅刻、居眠り、貧血で倒れる等)学生に対し、生活環境・健康管理・アルバイト状況等の把握のため面談を実施している。経済的な問題を抱えている場合は学校として介入しにくい状態であるが、健康管理や生活環境において表面化したものに対しては、学生への指導と同時に保護者への連絡も行っている。保護者への連絡は、学生の状況を把握してもらうことと、学校が保護者の意向を知ったうえで学生を支援していくことが目的である。今後も保護者への連絡の必要性は高まると思われる。そこで、今後課題となるのが保護者への連絡が学校閉館時間以降に及ぶことである。緊急性の要するものに対しては例外的な対応となるが、可能な限り学校開館時間内での対応となるよう調整が必要である。さらに今後は、学内外を問わず SNS 関連のトラブルも増えてくるとと思われる。後手にならないよう、引き続き学生の変化を素早く捉え必要な対応がとれるように教職員間で連携を取りながら学校生活を見守る必要がある。</p> <p>卒業生に対する支援体制は、学校としての取り組みは整備されていない。各教員の個人的なつながりにおいて転職のサポートや図書館の利用、進路相談等に対応している。今後図書館の充実を含め卒業生により良い支援が円滑にできるよう制度を整えていくことも必要である。</p> <p>少子化が進み、今後現役生の確保が困難となるなか、本校は3年制、学費の安さから入試者のターゲットを社会人にしていく方向も視野に入れている。その中で、社会人のニーズを踏まえた教育環境を整えることで社会人入試者に本校のアピールができるものと思われる。昨年度と今年度の新卒者以外の受験者数を比較すると 42%減少している。昨年度から今年度にかけて、ほとんど整備が進んでおらず、入試の説明会でアピールするには至っていない。まず社会人のニーズの調査を行い、結果の分析と対応の検討にて整備を進め、社会人受験者の増員を図る。</p>
事 項 特 記	<p>今後、図書室のインターネットによる論文の閲覧等を整備していくに当たり、卒業生への支援体制がさらに円滑に進むよう、利用規約等を整備する必要がある。</p>
今 後 の 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人受験者数を増やすための社会人の教育環境に対するニーズの調査 ・卒業生に対する支援体制の整備

最終更新日付	平成 28 年 2 月 10 日	記載責任者	中谷秀美
--------	------------------	-------	------

基準 6 教育環境

No	点検項目	自己評価
6-1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	2.4
6-2	学内外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか	3.0
6-3	防災に対する体制は整備されているか	2.7

以上の点検結果をふまえて、基準 6 の総括と特記事項を以下に記載する。

点検項目総括	<p>本校は開校から 15 年が経過しており、その時々状況に応じて必要となる備品・設備・教材・図書などを整備してきた。中には、老朽化により破損しているものもあり、必要に応じて点検・修理を行っている。老朽化による破損については既に教育環境に影響を与えているものもあり新たな整備が早急に必要である。今後も整備の必要なものは増加すると考えるが、破損・修理箇所を発見した際は速やかに申請書を提出し、継続的な修理の依頼を続けていく。そして、学生の教育環境を悪化させないよう努めたい。特殊機器・物理療法機器についてはスムーズに動くものが少なく、機器が旧型であるため教育環境として十分とは言えない。また、教育上水銀血圧計の実技は必要であると思われるが、実際臨床で理学療法士が測定する場面では、デジタル血圧計の使用も頻回なため、学生がデジタル血圧計を経験する機会も学習の中に取り入れる必要もある。しかし、本校には十分な数が揃っていないため今後は購入の検討も必要である。</p> <p>実習は現在のところ 1 年生で 1 週間で 1 回、2 年生で 3 週間で 2 回、3 年生で 8 週間で 2 回それぞれ学外の病院や施設などで実施している。しかし、実習施設については安定した確保ができていない。継続的な新規実習施設の確保と、契約施設の拡充を図りたい。同時に、今後新たに断られる施設を減らす取り組みとして、学生の質の向上と就職先として学生への推奨を行う。また、実習施設との関係性を保つという意味で今後も施設と連携を図り密な関係を保ち、臨床実習教育に取り組んでいくことである。</p> <p>防災体制については消防等の指導に従ったものとなっており、消防訓練や救急救命講習などを通じて防災意識を高めるような工夫がなされている。しかし、近年の大災害を想定すると本校の防災対策は十分と言えない状況で見直していく必要があると思われる。今年度、AED が設置されたことを受け、状況に応じていつでも使用できるよう今後の防災訓練の内容に取り入れることが望ましい。</p>
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・新規実習施設の申請の届出を実習開始の半年前には完了しなければならず、今後は年度が始まるまでに各実習の不足施設数を確保する動きをしていく。 ・医療法人阪奈中央病院で行われた、超音波治療の見学、整形外科研修会等臨床現場で行われている最新の医療技術や知識が教職員を通して学内に持ち込まれ、時代の要請に応じた多角的な教育が実践できる校風を生み出していると思われる。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル血圧計の必要性 ・大災害に対する防災対策 ・年度初めまでに実習施設の確保ができるよう努力する。

最終更新日付	平成 28 年 2 月 3 日	記載責任者	中谷秀美
--------	-----------------	-------	------

基準 7 学生の受入れ募集

No	点検項目	自己評価
7-1	学生募集活動は、適正に行われているか	3.2
7-2	学生募集において、教育成果は正確に伝えられているか	3.2
7-3	学納金は妥当なものとなっているか	3.4

以上の点検結果をふまえて、基準 7 の総括と特記事項を以下に記載する。

点検項目総括	<p>募集活動については、今年度の入試で定員を満たせなかったことに対して原因と対策を検討し、来年度に向けて教職員で共有することが必要である。しかしながら、本校の受験者数の倍率は例年通り維持できており募集活動としては事務人員が少ない中で成果を出している側面もある。課題となるのは、質の高い受験者数を確保できていないことである。今後、さらに減少していく新卒者、大学との入試競争を視野に入れると社会人をターゲットにした募集活動が必要である。特に、前職が医療あるいは介護従事者への特別試験の検討である。学力面での保障はないが、職業として臨床現場で働いていたということは一定水準の社会性や人間性が養われていると判断できるところでもある。広く有能な人材を集めるために様々な受験制度を検討し、複数回受験の機会を設けられるよう工夫している。また、募集に関する広報活動については様々な媒体を通じて広域に渡って実施している。これらによって毎年多くの希望者に入学試験を受験してもらうことで、入学倍率は毎年一定の割合を維持している。</p> <p>広報活動については現在行っているものでも本校を理解してもらうことに十分な成果を上げているが、より多くの人に本校を認知してもらうための案は多数挙がっていた。市民講座を開講することで地域の方々に本校を知ってもらうことや体験授業回数を増やすこと。また、インターネットの充実も継続的に必要となってくる。さらに、メディアスとの連携を図り、高校のスポーツ科にターゲットを絞り出張説明会を実施する、You Tube へのアップなどの案も出ている。生駒市主催の行事の中でブースを設けその場のニーズに応える理学療法士の役割を果たし、本校と理学療法士の認知度を高める活動もある。これらの案を現実に進めるためには、教職員が一丸となり、広報活動を具体的に1つでも実施できるよう、項目の選択、年間予定の確認、時期の検討、現状業務の整備を図り進めていく必要がある。</p>
特記事項	<p>本校の学納金は非常に安く設定されており、関西圏においてもその安さには目を見張るものがある。これは優秀な人材に学び易い環境を提供したいという当法人理事者の意向によるところが大きい。このことは本校が教育に対して真剣に向き合っているという姿勢を顕著に表している。</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・前職が医療あるいは介護従事者への特別試験の検討 ・広報活動の検討

最終更新日付	平成 28 年 2 月 10 日	記載責任者	中谷秀美
--------	------------------	-------	------

基準 8 法令等の遵守

No	点検項目	自己評価
9-1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3.4
9-2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3.3
9-3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	2.0
9-4	自己評価結果を公開しているか	1.4

以上の点検結果をふまえて、基準 9 の総括と特記事項を以下に記載する。

点検項目総括	<p>各種法令に定める基準に準拠した運営がなされており、監査等において指摘されるような点があったとしても速やかに対応して適切な運営がなされるように努めてきた。個人情報保護の取り扱いについては、臨床実習、ブログ・パンフレットの写真使用について、近年では、SNS の書き込みについて、「学校法人栗岡学園個人情報保護規程」を提示し、適切に運用されるような対策・指導がとられている。とりわけ各実習前には患者情報の取り扱いに細心の注意を払っている。</p> <p>自己評価について、各々評価結果は認識しているものの、自己の問題点把握が不十分な状況やその認識が低いこと、改善対策を実施したが成果が乏しかった、目標の理解が乏しい等、目標達成に向けた取り組みの具体的な実施には至っていないようである。今回の結果をふまえて、教職員間で情報や問題認識を積極的に共有し、改善対策を実施した時の成果を共有し内容を広く公開することで問題の解決に努めたい。自己評価の公開自体課題となっている。</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の公開

最終更新日付	平成 28 年 2 月 10 日	記載責任者	中谷秀美
--------	------------------	-------	------

基準 9 社会貢献・地域貢献

No	点検項目	自己評価
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2.2
10-2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3.0
10-3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	2.0

以上の点検結果をふまえて、基準 10 の総括と特記事項を以下に記載する。

点検項目総括	<p>本校が掲げている建学の精神にある「地域社会に根ざした理学療法士教育を実践し、広く社会に貢献する。」や教育理念に基づく「豊かな人間性を養い、有能にして広く社会の要請に応え得る理学療法士を育成することを目的とする」にも地域社会への貢献の重要性が謳われており、これに則って専門職としての心得や行動規範が身に付くような教育を実践している。平成 18 年から近隣地域の清掃活動に取り組んでおり、その活動内容は地域住民からも評価を得ており、学生は清掃中に掛けられる感謝の言葉によって地域社会に貢献する意味とその行動規範を学んでいる。このような奉仕の精神は授業や指導だけで身に付くものではないので、学校行事として地域社会に貢献するための取り組みを行っている。しかし、進級や学生状況を考えると今までのような積極的な活動は難しいと考える。今後どのような形であれ社会貢献、地域貢献の参加の有無について具体的方針を検討する必要がある。あるいは内容が置き換わるものであっても違う貢献の仕方に参加するなど、合わせて検討していきたい。</p> <p>地域に対する公開講座の取り組みには着手できていないのが現状である。本校周囲の住宅は高齢化が進んでいると思われ、理学療法士が何らかの形でかかわれる条件であると思われる。今後は近隣住民に対する公開講座や学内の教育資源を活用した貢献などを積極的に検討し本校の認知度を高めていく必要がある。</p> <p>学生ボランティアについても推奨しており、依頼の有ったものについては学生に紹介している。学生は学業に影響を及ぼさない範囲でその活動に取り組んでおり、ボランティア活動から様々なものを学んでいる様子である。最近では、スポーツに関心のある学生が高校野球のボランティアに積極的に参加している。このように自分たちの興味のある範囲でボランティアに協力する風土が培われているので、学校としては今後そのような活動が積極的に行きやすいカリキュラム構成や行事構成になるように工夫することや学生が興味を持てる内容の案内を収集することで活動を支援していきたい。</p>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献、地域貢献の参加の有無について具体的方針の検討 ・地域に対する公開講座の取り組みの検討

最終更新日付	平成 28 年 2 月 10 日	記載責任者	中谷秀美
--------	------------------	-------	------